

お釈迦さまの 十大弟子

(阿難尊者)

2回にわたって掲載します。今回は第1回目です。

仏教とは一言で言えば、「智慧と慈悲」の教えです。拙僧が口癖にしております「人がしあわせになるための教え、社会が平和になるための教えである」という、まさに「至福の寄辺」と言えるものです。

その意味からも仏教はまさしく人類の至宝と言っても過言ではありません。お釈迦さま入滅後、その教えを後世に伝えることこそ至上命題となりました。十大弟子を中心に多くの弟子が集まり、教え賜った「法」を整理検証され膨大な経典ができ上がりました。爾来現在まで2500年に亘ってその法灯は人類に光明を放されているのです。今回よりその嗣法に携われた釈迦十大弟子についてご紹介しましょう。

今回は第1回目。阿難尊者は、お釈迦さまの実のいとこで、侍者(おそばつき)として25年もの間ひたすら随従された方で十大弟子の一人に数えられます。

弟子1250人の中で常にお釈迦さまの説法を間近で聴聞され、よく質問され、その記憶力が抜群だったことから「多聞第一」と称されました。お釈迦さま滅後に第一結集という教典編纂のための会議が開催されることになりましたが、阿難はまだ悟りが開けておらず、出席資格である阿羅漢(修行を修了した者)ではありませんでした。しかし会議には記憶力のずば抜けた多聞第一と言われる阿難の出席は是が非でも欠かせません。ついに彼は頑張つて阿羅漢の悟りを開き、会議の場では説法回想を担当されて余人の及ばない貢献をされたのです。教典の多くの冒頭は「如是我聞」から始まっていますが、この「我」とは阿難のことだと伝えら

れています。阿難はお釈迦さまの従兄弟であるといいました。

お釈迦さまが成道(おさと)りされた日の未明に叔父である斛飯に第二子が誕生されたのです。その意味からも仏教はまさしく人類の至宝と言っても過言ではありません。お釈迦さまの父君の浄飯王は「めでたい」という意味の「アーナンダ」(阿難)という名を付けさせたのです。

「名は体を表す」とはよく言いますが、彼は生まれつき美男子であり、誰からも「愛でられる」存在でした。特に女性の心を虜にさせるほどでした。お釈迦さまをして阿難に限って肌の露出を少なくするように指導されたとか。

彼はまたイケメン色男であるばかりではなく情にも厚かったのです。

お釈迦さまの養母の願いを聴き入れて、お釈迦さまに懇願して当時まだ許され

ていなかった女性の出家(比丘尼)の道を開いた功

労者とも伝えられています。教団の中でも阿難に対しての信奉はかなりのものがありました。

後々の仏教教団は、阿難を師と仰ぐ人達によって大きく発展したといわれています。

お釈迦さまが80歳の夏安居(げあんご)のとき、諸国を飢饉が襲いました。

このような時に教団が一箇所に固まっていたのでは共倒れになってしまうということで、お釈迦さまは一時的に解散命令を出し、ご自身は阿難と二人で過ごすことになりました。

千葉県 西光寺 住職 2回目(5月)に続く



さんわ便り

第172号 所部町 行グルー さんわ グル 編集 大分市 森

私が私であつてよかつたと言える あなたになれ 法語案内解説

今月の言葉は、実に味わい深いものがあります。これは一九九九(平成十二年)十月五日に、四十歳で往生された中島みどりさんという方の言葉です。

彼女にはご主人と小学校二年生の娘さんと幼稚園に通う息子さんがいました。

そんな彼女が悪性リンパ腫と診断され、激痛の中でご主人と二人のお子さんに、妻として、また母として、渾身の力で愛情のこもった言葉をつづり、思いの全てを伝えていかれたのです。

それが今月の言葉が収録されている『白蓮華のように―あなたに会えてよかつた―』という一冊なのです。

この本を読めば、彼女が厳しい闘病生活を、阿弥陀さま・親鸞さま、そしてご家族と、いかに感謝とよろこびと反省によつて過ごしていたかかわかります。彼女は、幼少期に浄土真宗の日曜学校に通う生徒さんであり、やがて自然と人生の意味に真剣に向き合うようになっていかれたようです。この本にあらわれている彼女の姿は、尊い本物の念仏者です。

人生の実相 中島さんは今月の言葉を、ご自身で次のようにお子さん達に伝えておられます。私が私であつてよかつたといえる私は、お金持ちになつたり、健康だからよかつたといえるようになつたとか、そんなことではないのです。：中略：お金がなくとも病気をしてもいろんなことをするなかで、いつで

も、どんなときでも、「私が私でよかつたといえるあなたになれ」と呼びかけてくださる方があつた。

その呼び声を聞くというところが、人間のいちばん大事な願いではないでしょうか。そのお方こそ親鸞聖人だと私は思います。

だから「お母さんは、お母さんでよかつたと思つてます」、お母さんは親鸞様が大好きです。

『白蓮華のように―あなたに会えてよかつた―』(一四〜一五頁)

これによると中島さんは、自分の望むように金や健康があれば、人は自分の人生を認めることが出来るのだといった、そんな甘い人生観を勧めているのではありません。むしろそうしたことは思惑通りにならないことが人生であることを伝えよかつた」とその人生を引き受けていける人間になれ、

と言っているのです。そして自分の人生がどう在つても、それを引き受けていくためには、人生を認めてくれる自分以外の存在が必要なのであり、その方こそ真実の阿弥陀さまを明らかにされた親鸞さまであると おつしやつていられるのです。

まことにその通りですね。彼女はこう言います。もしお寺にお参りして、聴聞をしてみたいと思うときがきたときは、ぜひ、お参りして下さい。

この世に生まれ出た目的がはつきりするはずです。お母さんもそのことがわからなくて随分と悩みました。随分苦しい時期もありましたけれど、こうして病気になる、はじめて目がさめた気がしました。 やつと目をさめさせられたのです。ここまでの大変な病気をしなければわからないのでした。 苦しくてつらいけど、やはりこの病気になつてい

念仏するとは 常に摂取の光の中に自身を見出すことである。 金子 大栄

ホー ム ペー ジ 改 葬 - さ ん わ

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL(0977)72-6415
三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トライアル横) TEL(0974)22-3301
森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL(097)524-6525

なければ、もっと大切なものに目が開かなかつたでしょう。そう考えるとなんでもご縁ですね。本当にありがたいことです。

『白蓮華のようにあなたに会えてよかつた―』(一六頁) 自分の人生に「あれがなかった」「これがない」と言い出せば、それこそキリがないわけですが、この彼女の言葉は、むしろ自分には何か恵まれていたのか、そして、いま何か恵まれていのか、そちらに目を向けることの大切さを教えています。こうした発想の転換は、ご法義を聞く者に具わっていく仏の智慧であるといえます。そして、この苦難を転換する智慧を与えて、その人生を護念し続ける方、それが阿弥陀さまなのです。

中島さんという方はその阿弥陀さまに確かに出遇い、苦難を転換する智慧を得て、「私が私であつてよかつた」と見事に自分の人生を引き受けて行かれた珠玉の念仏者です。